

者、押邊行可注進子細、且諸人感安堵之恩之様、普可相觸之狀如件。

文和元年十二月十五日

(足利義詮判)

吉見參河守殿

正平八年

癸巳

紀元二〇一三

文和二年

京都

二月廿一日。武藏金澤稱名寺領能美郡輕海郷代官僧杲照、去年の年貢米代錢を同寺に送進す。

【稱名寺文書】

武藏

四二六

(彌生書) 文和元年々貢之分

送進 去年文和御年貢米代錢事

合添拾貫文者

右爲去年御年分所送進之狀如件。

文和二年二月廿一日

杲照 在判

三月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て禪林坊に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

四二七

明日午刻於禪林坊

可有御集來矣

白山寺 莊嚴講所

源運大德奉

承澄大德奉

尊仁大德奉

幸淳大德奉

祐運大德住山

貞成大德奉

正成大德奉

禪永大德奉

良憲大德奉

右依恒例所唱如件。

文和二年三月廿四日

勸進 舜 雅

四月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て圓乘坊に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

四二八

明日午刻於圓乘坊

可有御集來矣

見聞

立政權律師奉

貞澄權少僧都奉

善耀權律師奉

禪祐阿闍梨奉

承覺權律師奉

一運阿闍梨奉

連海大德奉

詮乘大德

禪俊大德奉

豪運大德

右依恒例所唱如件。

文和二年四月廿四日

勸進 良 憲

五月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て行眼坊に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

四二九

明日午刻於行眼坊

可有御集來矣

見聞

貞澄權少僧都奉

善耀權律師奉

禪祐阿闍梨

承覺權律師

一運阿闍梨奉

連海大德

詮乘大德奉

禪俊大德

豪運大德奉

勸進 立 政

右依恒例所唱如件。

文和二年五月廿四日

六月二日。長木工左衛門入道珠阿、その妻法信に、羽咋郡土田莊上村地頭職を讓與す。

【長傳書】

四三〇

(吉見氏題)

袖判

讓渡 後家法信

能登國上田庄上村半分事

右後家一期之間ゆづる所也。若いらんさまたげをいたす輩あらば、上裁をして、かれがぶんを申得て、後家知行すべし。一期後は七郎季信ゆづるべし。他人へゆづるべからず。仍讓狀如件。

文和二年六月二日

沙彌珠阿 在判

(沙彌珠阿の長木工左衛門なることは、元亨二年五月廿三日に出せり。また七郎季信は貞治五年二月四日の條に太郎すゑのぶに作る。)